

【教養科目領域/基盤科目群】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人間関係論	NLA11_008	必修	1	1	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
堤 マサユ	教員控室	kango	授業終了後に質問等受付		
授業の目的・概要	人間を対象とする看護専門職にとって、安定的で、信頼のある人間関係が形成できることは重要である。我々は、家族関係の在り方を基礎に様々な社会関係を学び、成長する。親子から上下関係、きょうだいから仲間関係、夫婦関係から男女の関係、平等な関係などである。本科目では、家族を中心に自分の歩みを振り返り、自分を知り、自分探しの中から人間関係形成過程を考察する。さらに、自分を取り巻く地域、学校などの友人関係、職場で働いたときの社会関係を客観的に見つめられる力を養う。とりわけ、看護専門職を目指すものとして、人間関係形成に必要なコミュニケーションの技法、人との対応力を身につける努力をする。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	看護専門職を目指すものとしての自覚を持ち、常に自分を磨く姿勢、自己啓発を心がけ、人との対話力をスキルアップする努力をしてほしい。				
教科書	家族看護学 看護学テキスト 山崎あゆみ 原礼子編著 南行堂 2022年				
参考書	人を育む人間関係論 服部祥子著 医学書院 2003年				
外部教材	特になし。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	人生各期における発達段階について理解できる。	HSU(1)(5)(6).NS(2) (4)			
②	自分史を振り返り、自己理解を深めることができる。	HSU(1)(5)(6).NS(2) (5)			
③	他者理解をするために必要な基本的な知識を身につける。	HSU(1)(5)(6).NS(2)			
④	医療従事者として必要な基本的なコミュニケーションの知識を身につける。	HSU(1)(4)(5).NS(2)			
⑤	医療従事者として必要なコミュニケーション技法を身につける。	HSU(1)(4)(5).NS(2)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	ガイダンス、人間関係を学ぶ基本的視点 人間の成長、発達と人間関係の変化を学習する。	講義	準備学修として、自分の成長過程をふり 返り、人間関係の変化を考えてくる。 2		
2	家族とは何か？世帯・いえ・家庭との違い 人の一生と家族、多様な人間関係を学習する。 人間関係の基礎としての家族を学ぶ。	講義	復習学習として、家族関係図（エコマッ プ）親族図（キンマップ）が書けるよう にする。 4		
3	様々な研究者の家族発達段階論を学習する。 ライフサイクル論から人間関係の変化を学ぶ。	講義 グループワーク	予習として、自らのライフプランを考え てくる。グループワークから人間関係の 変化を考える。 4		
4	家族の地位と役割から人間関係を学習する。 勢力関係から見る人間関係を学習する。 集団的地位と関係の地位の在り方と役割を学ぶ。	講義	復習学習として、自分の与えられた地位 と役割から人間関係を考える。 4		
5	役割期待から見る人間関係を学習する。役割のズレ がなぜ起こるか、良い人間関係形成について考 え、コミュニケーション技法を学習する。	講義	復習学習として、人間関係の役割認知、 役割遂行から役割のズレ、コミュニケーション の在り方をふり返る。 4		
6	地域社会における人間関係、ネットワーク社会の 形成とコミュニケーションの在り方を学習する。 福祉を支える地域社会などの互助関係を学ぶ。	講義 グループワーク	準備学修として、地域社会には、どのよ うな様々な集団があるかを学んでおく。 老人会、子どもスポーツクラブなどの年 齢集団など、共生社会を考える。 4		
7	職場の人間関係、コミュニケーションネットワ ークの類型を学ぶ。危機対処モデルから人間関係を 学ぶ。	講義	復習学習として、医療従事者としての患 者との相互関係を再度学ぶ。 4		
8	まとめ（ディスカッション・プレゼンテーション）	講義 プレゼンテーション	準備学修として、これまでの学習をふり返 る。授業を通して、新たに発見したことを確 認し、復習学習でまとめる。 4		
試					

【教養科目領域/基盤科目群】

		達成度評価						
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
総合力指標	知識・技術力	0	60	20	0	20	100	
	思考・推論・創造する力	0	20	0	0	0	20	
	協働性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5	
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	5	15	
	コミュニケーション力	0	0	10	0	0	10	
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	5	15	
問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10		
評価のポイント							フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点						
試験	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
レポート	①	✓	毎回、小レポートを書かせる。授業で学んだ知見を必ず記入、疑問、質問がある場合は記入する。学びを通し、新たな気づきがリアクションペーパーに、記述されているかなどについて評価する。					授業の初めに前回のレポートにおける疑問、質問を解説、回答する。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
成果発表	①	✓	積極的に参加、自分の考えを表現しているか、努力しているかを評価する。					発表の終わりに評価、コメントする。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
その他	①	✓	誤字、脱字、提出日時を守っているかなども評価に含む。また、グループワーク、プレゼンテーション時、積極的に自分の意見を述べられているか、他者の意見に対する自分の考えや意見を述べているかなどディスカッションができていているかなどを評価する。					授業のはじめか終わりに評価、コメントする。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
備 考								
他 担 当 教 員	なし							
教 員 の 実 務 経 験	担当する教員は、大学における教育経験を 40 年以上有したものである。							
実 践 的 授 業 の 内 容	毎回、小レポートを書かせる。授業で学んだ知見を必ず記入、疑問、質問がある場合も記入し、再度学びなおす。この学びを通し、新たな気づき、知見を獲得していくようにする。また、提示した課題に関して、論旨を考慮して、自分の考えが表現されているかを総合的に評価する。授業態度や講義中の質問に発言する貢献度を鑑み、レポートと出席も考慮して総合して評価を行う。							
そ の 他								